

### 3.平成18年度の取組内容

平成18年度のプログラムの実施計画は、次の通りです。

番号	実施計画	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	プロジェクトチームの月例研究会と教材作成作業	●	●	●	●	●	●
2	ウェブサイトに活動についての情報を掲載する(随時)	●	●	●	●	●	●
3	タイでのフィールド調査実習の記録を整理・編集し教材化	●	●	●			
4	岩手県紫波町での間伐体験の記録を整理・編集し教材化	●	●	●			
5	上記のフィールド学習参加学生による調査結果のまとめ作業、報告会	●	●	●	●	●	
6	パシフィコ横浜でのポスターセッションへの出展(11月中旬)		●				
7	京畿大学校(韓国)でのセミナー企画打ち合わせ(12月)			●			
8	愛知県北設楽郡東栄町での一年の祭と芸能および生活の撮影			●	●	●	
9	公開フォーラムの開催(2月14日)					●	
10	千葉県鴨川でのフィールド学習の準備(3月上旬)						●
11	高大連携の提携高校への呼びかけ(3月1日~3月14日)						●
12	京畿大学校(韓国)でセミナーを開催(3月26日~29日)						●

本学の経済学部では、毎年、東南アジアにおいて、フィールド調査実習を行っており、今年も9月3日からタイで実施しました。このフィールド調査実習では、経済開発が生活者にもたらす影響や環境問題を、学生が実地に学びました。また、本学の総合科目(全学部の学生が受講できる科目)では、毎年9月に、教職課程の教員の引率で、有志学生が岩手県紫波町に出かけ、間伐作業を体験していますが、今年も9月8日から実施されました。参加した学生は、日本の森の生態や山村の人々の暮らしに触れて、環境の維持・保全の大切さを実感しました。これらの活動に参加した教員・学生の記録や映像を活用して、10月以降、フィールド学習の成果のデータベース化・教材化の作業に取り組みます。これらの教材は、一般学生への啓発、次年度以降の参加者への事前学習等に活用する予定です。



今夏に行われたタイにおける生協国際産直バナナ生産地の視察

日本の自然環境の維持・保全は、山村の人々の宗教や文化とのかかわりで行われてきました。しかし、山村の伝統と生活文化は失われつつあります。その記録を残すために、本取組では、愛知県北設楽郡東栄町における一年の祭りと芸能および生活を、ハイビジョン映像で撮影いたします。本年度は、白山祭りと十五童の舞、正月の花祭、シカ打ち神事と二歳祈願を撮影します。これらの映像は、神道や日本の芸能などに関心のある学生を中心に、広く教材として活用していきます。

3月には、平成19年度の「環境と開発98」のフィールド学習(棚田耕作)の準備に入ります。水質測定器を購入し、また、千葉県鴨川で田圃(棚田)を借りる手続きをします。また、苗床を作成して、稲の栽培を学生に体験させる準備を行います。

国際的な視点から環境問題を考えるために、本年度には、韓国の協定校である京畿大学校との交流を計画しています。12月中旬に現地で打ち合わせをし、3月に現地交流セミナーを実施する予定です。国学院大学環境教育研究プロジェクトチームが指導している学生を中心として、本学の学生が韓国水原市を訪れます。その際、学生たちは、水質測定器を持参して、水原市を流れる川の上流と下流で水質を測定する予定です。また、京畿大学校の環境問題に関心のある教員や学生および日本語を学んでいる学生と合同でセミナーを開催、日韓の環境問題について、意見を交換します。これによって、参加学生は、環境問題が国境を越えた、共通の問題であることを理解することでしょう。また、この交流の様子は、映像化して教材化する予定です。その教材は、本学の学生のみならず、韓国の学生、特に日本語を学んでいる学生にとっても貴重な教材となるでしょう。



韓国・水原市にある世界文化遺産にも登録された水原城の橋